



観察力と想像力。

元 号が「令和」になりました。由来が万葉集の詞書からということもあり、ついに短歌の時代がやってきた、と短歌関係者は心を踊らせているとかいないとか。本紙も読者の皆さまに「短歌って面白そう」と思ってもらえるよう、一層頑張ってます。そんな今号のお話は「短歌を詠むことのメリット」について。秀歌をご紹介します、少しお話したいと思います。

短歌教室などではよく「短歌とは生活の中での気付きを詠むもの」と教えられます。これ、言うのは簡単ですが、いざ実践となるとなかなか難しいですね。でも逆に考えると、短歌を詠むことは「観察力」を鍛えるトレーニングになるということ。例えば、こんな作品。

ともだちはみんな雑巾ぼくだけが父の肌着で窓を拭いてる
(岡野大嗣)

※歌集『サインと屋』収録歌

筆者が小学生のときの思い出を振り返って、その一面面を切り取っています。ポイントが読者に伝えたいのは場面ではなく、そこにいる主人公の気持ちということ。みんなと違う

朗読イベント

怪談 de ナイト

～真夏のお寺で怖いおはなしを聴こう～

入場無料、どなたでもお越しいただけます。暑い夏だからこそ、怪談でみんなで一緒に涼しくなりませんか？

日時: 7月26日(金) 19時～

場所: 大雄寺 (高山市愛宕町67)

出演者

常光亮子さん

江名子まちづくり協議会事務局長。地域の人々と協力しながら地域交流事業の運営などに携わりつつ、詩吟や民話の語り、絵本の読み聞かせなどの活動をしている。

演目

飛驒伝承の怪談『猫石』・『子育て幽霊』・『夜泣き松』

益田真里子さん

日本朗読検定協会認定朗読プロフェッサー。文字から想起される映像を声と間で表現し、聴き手を物語に誘う。CM ナレーター・朗読家・即興劇集団しばいぬ海賊団としても活動の場を広げる。

演目

今邑彩『よもつひらさか』・夏目漱石『夢十夜』(第三夜)

ことへの焦りや恐怖が、場面を通して読者の心に芽生えます。短歌作品としてどの場面を切り取るのが良いか。優れた観察力の賜物ですね。

も う一点、短歌を詠むことで養われるのが「想像力」です。

日常を観察しても短歌になりそうな場面がないときは、自分の想像力を駆使して魅力的なシーンにグレイドアップさせてあげるのも短歌作りでは欠かせない工程です。

雨の日にジンジャーエールを飲んでいるきみは雨そのもののようだね
(五島諭)

※歌集『緑の詞』収録歌

上の句の何気ないシーンが後半の比喩でぐっと豊かになる、诗情溢れる

作品です。比喩とはつまり、作者の想像力そのもの。雨降りの日にジンジャーエールを飲むこと自体は日常として普通にありえそうなこと。そんな人を「雨そのもののよう」と表現したところに読者の驚きが生まれ、この作品を魅力的にしています。

い がでしたか？短歌を続けることで磨かれる観察力と想像力。家族や友人との何気ない日々、心に惹かれる瞬間を発見したり、平凡な毎日でも、想像力で輝きを補強したり。「日常がちょっと豊かになるかも？」と思ったらぜひ、短歌に挑戦していただくと嬉しいです。令和になったことだし、ね。

(文・田中ましろ)

読者投稿
「友達」の短歌

今月のテーマ

あの人は誰かと問へば友達と答ふる祖母の好きなヘルパー

(ともえ夕夏)

友が泣きたぶんわたしも泣いていて話す中身はなんでも良かった

(小俣鱒太)

アラサーで彼氏がいない友人と焼肉越しに見せあうスマホ

(みやや)

友と友ねじれの位置にいるなかで迷う私よ十三の冬

(米澤静香)

誰よりも仲良しだから姉妹兼親友でしようこれからずっと

(衣未)

僕だけの頭の中にあることをいつか話せる人が友だち

(くらだたけし)

本名は知らなくとも友となるネット社会はパラレルワールド

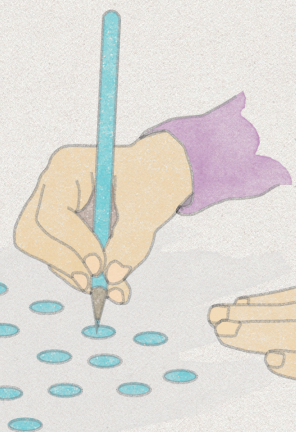
(知己 凜)

ふて腐れ気味のあなたの挨拶に親友になる予感がしてる

(小池未笑友)

友達に戻りましようと言われても友達だった過去なんてない

(若杉有紀)



クラスには馴染めなかった級友が飽かずに水玉を書いていた

(菊池洋勝)

ママ友のママがとれたら友だけが残ると思っていた春が逝く

(えんどうけいこ)

友と見た海の色を忘れないあれば確かに旅立ちの青

(若紫音佳)

彼女から告白された旧友の記憶を改ざんする同窓会

(須磨壺)

リア充が次々爆発する青春。無事な奴らが友達である。

(石川ノラネコ)

友達その先にある何かより失せない友情とるよわたしは

(ことり)

やじろべえゆれてさみしい夜のせい友だちだった男に触れる

(稲泉真紀)

短歌募集中!

『ごな』では投稿コーナーに掲載する短歌を募集しています! 投稿数に限りはありません。毎回のテーマに合った短歌作品をぜひご投稿ください。

次号のテーマ

『空』

投稿締切

6/11日

郵送・ファックス・メールは、名前(ペンネーム可)・住所・電話番号・作品を書いてご投稿ください。実行委員会が選んだものをフリーペーパーに掲載します。

郵送 0506-0009

高山市花岡町 2-18

生涯学習課宛

FAX 0577-35-3414

Mail hidatakayama.kodamale@gmail.com

URL https://mailform.mface.jp/frms/kodamale2019/aerfw oen465v

Twitter @hidamanyou ハッシュタグ「#ごなフリベ」をつけて作品をツイートしてください。

田中ましろの
短歌と写真



友達の恋愛観を聞くときの
カシスソーダがかすかに苦い

Mashiro Tanaka

MODEL: 遊上なばな @I_am_787

あなたも短歌が詠めるようになる?!

短歌ワークショップ、開催決定!

7月27日と8月3日、短歌を実際に作ってみるワークショップが高山市民文化会館にて開催されます。はじめて短歌を作る人も大歓迎。ぜひご参加ください。

参加費
無料!

1 7月27日(土) 14:30~ 講師 田中ましろ 高山市民文化会館 4-7会議室

「普通の短歌」と「良い短歌」はどこが違うのか。初心者から一歩抜け出すために気をつけることを解説しながらみんなで短歌を作ってみるワークショップです。

2 8月3日(土) 10:30~ 講師 天野慶さん 高山市民文化会館 2-5会議室

3 8月3日(土) 13:00~ 講師 大辻隆弘さん 高山市民文化会館 2-5会議室

※詳細及び申込に関しては、「広報たかやま」でお知らせします。

天野慶さんプロフィール

高校在学時より短歌創作を始める。19歳で短歌結社「短歌人」会に所属。日本各地でのワークショップ開催や、「NHK短歌」誌面短歌 station 連載など多岐にわたり活動している。歌集『つぎの物語がはじまるまで』。

大辻隆弘さんプロフィール

1960年三重県生。岡井隆氏に師事。「未来」選者。歌集に『水廊』『デプス』(寺山修司短歌賞)『景德鎮』(斎藤茂吉文学賞)などのほか、歌書も多数。NHKEテレ「NHK短歌」にて選者も務める。高校教諭。

編集人について



田中ましろ @tnkmsr

1980年生まれ。大阪府在住。歌人・写真家・コピーライター。

2010年より短歌×写真のフリーペーパー『うたらば』を企画・制作。短歌を広める活動に力を入れている。『うたらば』は日本タウン誌・フリーペーパー大賞2018にてコミュニティ・ライフスタイル部門最優秀賞を受賞。歌集『かたすみさがし』(書肆侃侃房)。写真歌集『燈心草を香らせて』販売中です。

編集後記

上記のとおり7月に高山市へ伺って短歌ワークショップの講師をさせていただけることになりました! 当日がもうすでに待ち遠しいです!(笑) 7月26日の朗読イベントも間違いなく面白いので、一聞の価値ありですよ。お時間ありましたらそちらもぜひぜひ。